

## 平成27年度 市長とランチでトーク 大学生編

「市長とランチでトーク」は、市政をより身近に感じてもらい理解を深めてもらうことを目的として実施するものです。

今回は、「大学生編」として実施し、地域づくりや地域課題等について調査・研究を行い、本市主催の「大学生によるまちづくり提案発表会」等にも参加している、帝京大学 経済学部 地域経済学科の学生達が、昼食をとりながら市長と懇談しました。

- 開催日 平成27年11月19日(木) 12:00~13:00
- 出席者 <参加者> 帝京大学 経済学部 地域経済学科 学生9名  
<市側> 市長

### ● 主な懇談の内容(抜粋)

市長： 皆さんからは、「大学生によるまちづくり提案」で「ふるさと納税」に関する提案や、公共交通問題についても素晴らしい提案をしていただき感謝申し上げます。ふるさと納税については、皆さんのアイデアが活かされました。また、公共交通問題については、バスの遅延時間などを具体的に実測していただき、バス事業者だけではなく、我々行政にとっても貴重な提案となりました。市がネットワーク型コンパクトシティを推進していくにあたり、効率性、利便性の向上を図りながら、行政と事業者が連携して進めていく必要がありますので、大変参考になりました。

バスは地域の命です。ある市ではバス事業者が撤退してしまったところもあります。

参加者： LRTについてですが、沿線の開発はどのようになるのでしょうか。

市長： LRTは、JR宇都宮駅東口から本田技研北門までのルートから優先して整備する予定です。ベルモールの先までは市街地を通っていきます。その付近は両サイドに低層の住宅が多いので、停留場等ができるとその近隣は建て替え等が生じられると思われますし、ベルモール近辺の住宅は既に価格の高騰が起きているようです。大きな開発がなされ、人がより集まってくるようなまちができるかもしれません。

ベルモールの先を通過すると、田畑が多い地域を走ることになります。市街化調整区域とよばれる地域ですが、車両基地の整備や、地元の方からの提案などもいただきながら、様々な施設ができることが期待されています。公共交通を充実させつつ、新たなまちづくりがされていくと思います。

参加者の皆さんは行政のこともよく勉強しているのでわかると思いますが、行政だけで行うまちづくりでは問題点などに気づかないことがあります。行政以外の民間の事業者や皆さんからアイデアをいただきながら進めていきたいと思い

ます。例えば、ふるさと納税について皆さんから提案していただき、よりよい制度に変わりました。皆さんに御協力いただきながら、今後もまちづくりを進めていきたいと思えます。

皆さんは、普段勉強していることでどのようなことが楽しいですか。講義を聴くだけではなく、外に出て現地調査なども行っているのですか。

参加者： 授業でオリオン通りとユニオン通りに行きました。

市長： 様子はどうでしたか。

参加者： ユニオン通りは車の通りは多いのですが、人があまり歩いていませんでした。

市長： 多くの自治体で中心市街地の活性化に取り組んでいるところです。本市では、オリオンスクエアで年間320日ほど何かしらのイベントで利用されているところですが、イベントの実施だけでなく、恒常的に人が集まる仕掛けが必要だと思えます。昔は、中心市街地にデパートがたくさんあり、人もたくさん集まってきました。中心市街地活性化に向けて会議を実施すると、地元の方々は、駐車場を無料にすることなどを要望してきます。郊外の大型ショッピングモールなどは、駐車場が無料で完備され、中心市街地では取り扱っていないものも取り揃えています。そういう郊外型の店舗と真っ向勝負することは難しいので、郊外とは差別化を図ったまちづくりが必要だと思えます。

ところで、普段の昼食で、皆さんはどんなものを食べていますか。

参加者： 学校の食堂を利用することが多いです。よく唐揚げ丼を食べています。

市長： 若い人は、唐揚げを好きな人が多いですね。

今日のお弁当は、障がい者の授産施設で作ってもらったサンドウィッチです。

障がい者の授産施設では、食べ物だけではなくいろいろなものを作っていますので、皆さんもどんどん利用してください。

今回、参加していただいた皆さんは、宇都宮市以外の出身の方が多いですが、「地元の自治体ではこんな素晴らしいことを行っているのに、宇都宮市でも是非実施してもらいたい」というような取組は何かありますか。

参加者： 宇都宮市は大通りの歩道が狭いと思えますので、例えば車線を2車線にして歩道を拡張すれば、回遊性も高まると思えます。

市長： ヨーロッパの国では、まず優先されるのは歩行者と自転車で、車はその次だそうです。

参加者： 私たちはオリオン通りの実地調査をしています。地元の人たちは「にぎわい」という言葉を口にし、よく「にぎわいがなくなった」と言います。私はオリオン通りでアルバイトをしています。それほど人が減っていると思いませんし、それなりににぎわっているのではと感じています。「にぎわい」の定義って何だろうと思えます。「経済面」のことなのか、あるいは「人が少ない、活気がない」ということなのでしょう。

市長： 昔、中心市街地に仲見世というものがあり、すごくにぎわっていました。若い人だけではなく、様々な世代の人が集まることが「にぎわい」につながると思えます。近年、休日は街に訪れる人が増えてきましたが、仲見世があった頃の記憶がある世代の人たちには、「にぎわいが少なくなった」と感じるのでしょうか。通行

量が増えるだけではなく、買い物や食事などの消費活動をしてもらう、そういった場所であることが重要になってきます。

参加者： 市長が、はじめてまちづくりに興味を持ったきっかけは何ですか。

市長： 20歳代の頃、青年会議所というところに所属していました。「宮まつり」にも深くかかわっていますが、当初「宮まつり」は1回限りの実施予定だったようです。その頃、より良いまちをつくっていきたいという思いが強くなりました。

参加者： 先ほど愉快市民になり、毎月25日は「愉快の日」だということを知りましたが、25日だけではなく、5のつく日も「愉快の日」を実施してもらいたいです。

市長： たくさんのお店に協力していただいていますので、是非皆さんも利用してください。市内の飲食店は、ランチの時間帯は人が来るものの、夜はなかなか来ないところが多いようです。

参加者： 宇都宮のブランド戦略についてですが、「住めば愉快だ宇都宮」のロゴを作ったいきさつなどを調べたことがあります。ブランドメッセージを作って終了、ということではないと思いますが、今後、どのような取組を展開していく予定ですか。

市民： 当初、100人くらいの市民に集ってもらい、宇都宮のいいところや好きなところなどを話し合ってもらい、意見を集約してブランドメッセージを作りました。

まずは、市民に宇都宮の良さを知ってもらう、宇都宮の良さを自慢してもらうことが大切です。今は「ダブルプレイス」という取組を進めています。「宇都宮に移住してください」という強い言い方ではなく、今住んでいるところ、今働いている場所だけでなく、「宇都宮の良さも知ってください」と呼びかけをしています。

今後も、どんどん新たな取組を行っていきますので、皆さんも是非アイデアを出してください。

参加者： ブランドメッセージは、学生たちも知らない人が多いと思います。良さをただ伝えるだけではなく、その良さを「体験」や「共有」することにより深く知ってもらうことが、今後大事になっていくものと思います。

## ● 懇談の様子

